

航空機部品一貫生産の実現を目指して

～航空機部品生産協同組合（三重県）～

これまで、個別に受注していた中小企業が共同で一貫生産体制を整え、米ボーイング社をはじめ国内航空機関連企業からの受注拡大に取り組む航空機部品生産協同組合(加藤隆司理事長)をご紹介します。

■ 背景・目的

東海地域は航空機関連メーカーが集積し、「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」に認定されるなど、航空機産業の振興に官民を挙げて取り組んでいる地域です。

部品製造分野においても近年はグローバル化が進行しており、これまでTier1(国内重工各社)の下で単工程受注(のこぎり発注)によって、長年自社の得意技術を深化させてきた部品製造に携わる中小企業各社は、自社以外の工程も取り纏めて完成部品をTier1に納品する「一貫生産体制」への変革が求められていました。

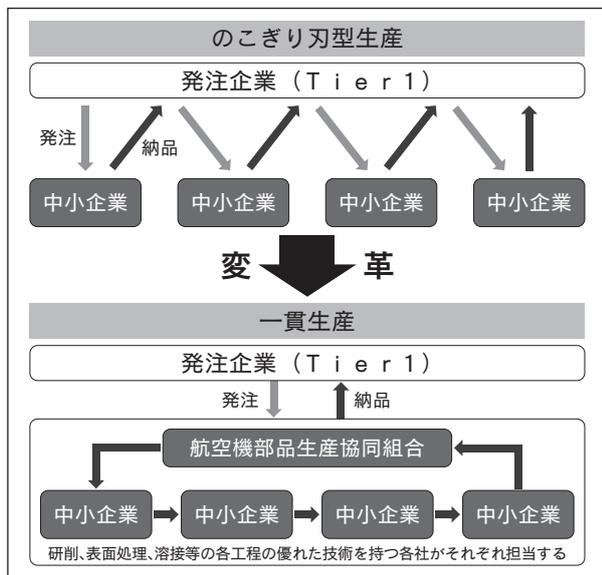
また、民間航空機市場は今後も伸長が見込まれることから、会社を横断して製造される各種の部品を効率的かつ安定的に製造するため、関連企業が集い、時間をかけてじっくり議論を重ねた結果、自動車産業の管理手法を取り入れた共同工場を立ち上げることとなりました。

事業の具体化に向けた準備を開始しました。平成28年には、機械加工や板金加工等の単工程スペシャリストが集結し、自社工程以外を他社と協業・補完する航空機部品の「一貫生産体制」共同工場の取得・整備に取り掛かり、同年8月より一部企業による部品加工が開始しました。共同工場の整備が完了した平成29年3月には「竣工式」を執り行い、取引先の米ボーイング社や三菱重工業幹部などの関係者にお披露目されました。以後、部品製造に必要な現場認証の取得を進め、同年10月より処理塗装を含めた一貫生産を段階的に開始しています。

共同工場では、当面はボーイング機の部品を中心に製造しながら、将来的には国産ジェット旅客機MRJ(三菱リージョナルジェット)の部品生産も手掛ける予定です。

本組合は、組合員である製造各社が共同工場の運営に関する様々な内容を協議・決定する合議機関としての役割だけでなく、対外的な窓口、共同工場の維持管理、組合員各社の従業員へのサポート等、総務的な役割を担っています。

組合では、三菱重工業からの全面協力と行政や金融機関等から幅広い支援を受けながら、共同工場の本格生産稼働を目指しており、国内初の航空機部品共同工場として、今後も大きな注目を集めそうです。



出展：アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区推進協議会

■ 取組内容とその成果

「各社が工場内にそれぞれの設備を持ち寄り、部品を一貫生産することで物流や作業の無駄が省かれ、競争力強化に繋がる」という各社のベクトルが一致したことから、部品製造に長年携わってきた中小企業によって平成27年4月に「航空機部品生産協同組合」を設立し、



[組合共同工場の外観]

【航空機部品生産協同組合】

- 代表者名 加藤隆司
- 所在地 三重県松阪市広陽町22番地
- 設立 平成27年4月
- 組合員数 10名(平成30年1月現在)